

超音波(エコー)検査を受けてみませんか?

今回は健診センター長の高橋龍太郎医師に「超音波(エコー)検査」について伺いました。



▲高橋龍太郎 医師

したスタッフが検査を行っていただきます。腹部エコー検査は主に肝臓や胆のう、膵臓、腎臓、腹部大動脈を対象としますが、子宮や卵巣、前立腺の病気が見つかることもあります。また脳ドックの一環としての頸動脈エコー検査は動脈硬化の早期発見や進行具合がわかることで脳梗塞など脳血管の病気の予防に役立ちます。

この1年間に腹部エコー検査を受けられた2,713人のうち肝臓や腎臓の嚢胞(のうほ)や、液体成分を含んだ嚢(袋)性病変は約半数に認められました。大部分は良性ですが、まれに腫瘍が潜んでいることがあります。「沈黙の臓器」といわれる膵臓はがんの早期発見が難しく、嚢胞の大きさや膵管の太さに注意を要します。また胆のうポリープは10mm以上の大きさが精査の対象です。一旦軽度の異常と判定された場合は数年に一度の経過観察をお勧めします。

超音波を発生する器械(プローブ)を体の表面にあてて体内の臓器から跳ね返ってくる超音波を画像として映し出す検査です。痛みや放射線による被ばくの心配がなく、体への負担が大きくありません。当健診センターでは最新の機器を導入して日本超音波医学会認定の資格を持つ熟練

い潜在的な病気のリスクが見つかる機会となりますが、一方で「異常なし」と判定された場合の安心感を得るメリットもあります。ご自身の健康状態を確認する意味でエコー検査を一度受けてみられてはいかがでしょうか。

社会福祉法人
恩賜財団 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

